ゆうことみゆきの
なるほど
アイヌ文化エッセイ

ソンコ de ソンコ

Vol.145

アイヌ文化のことをもっともっと話したい!
本田優子と村木美幸の二人が、その魅力を交代で
執筆するソンコ(=お便り)形式のエッセイです。

今月のテーマ

プヤㇲ(窓)

本田優子(札幌大学教授)

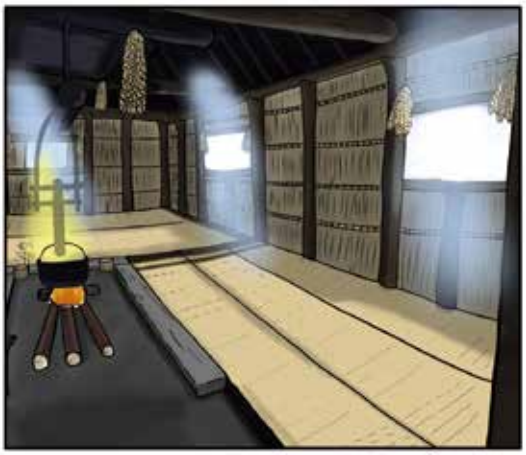
窓のことはアイヌ語でプヤㇲ。地方によって、プラヤ、プライなどとも言われます。胆振地方や日高地方の伝統的な茅葺きチセ(家)では、南側に二つ、東側に二つの窓を持つ家が多かったようです。南側の窓は、明るい日射しを屋内に取り込んだり生活の用を足すために使われました。

一方、東の窓はロルンプヤㇲ(上座の・窓)あるいはカムイプヤㇲ(神・窓)と呼ばれる特別な窓です。神窓はそれぞれの地方で神聖だと考えられている方角に作られ、窓の向こうにはイナウ(木幣)を立てる祭壇があり、儀式の際の祈りが捧げられます。神窓と祭壇の間はとても神聖な神様ゾーン。みだりに立ち入ることはタブーとされ、とりわけ神窓から家の中を覗き込むのは最大級に無礼な行為。たとえ儀式の最中でも厳しく叱責されます。(昔そういう現場に居合わせました…)。神窓と屋内の囲炉裏の間はロルンソ(上座/横座)というこれまた神様ゾーンで、儀式の際の役割でもないのに横切ったりするのはNG。つまり神窓を挟んで、家の外も内も神聖な空間なのです。

じゃ、どうして神窓はそれほど神聖なのでしょう?太陽が出たり大切な山が聳えていたり、人々が崇める神聖な方角を向いているからというのは大きな理由。でももう一つ決定的なのは、カムイプヤㇲという名の通り、その窓からカムイが出入りするからなのです。

たとえば森では最高位とされるキムンカムイ(ヒグマの神)を仕留めたら、男たちはその肉や頭を持って神窓の外に立ち、室内で待っている男性に、神窓を通して恭しく手渡します。その時、カムイの本体である霊魂は、頭骨の耳と耳の間にちょこんと座っているのだとか。上座に安置されたキムンカムイは、人間たちが宴の準備をするのをワクワクしながら見ていますが、傍らで四方山話をしながらおもてなしをするのはアペフチカムイ(火の女神)の役割。やがて人間たちによる飲めや歌えやの大宴会を堪能したキムンカムイは、再び神窓を通して屋外に出され、本体である魂はカムイモシリ(神々の世界)に帰って行くのです。

ところで、このように神々が出入りする大切な神窓には、庇のような小さな屋根がついています。名前はプヤㇲシクラブ。意味は「窓のまつげ」。かわいくて大好きなアイヌ語です。



イラスト/山丸ケニ

次回のテーマは「コタンノミ(村の祈り)」
村木美幸(アイヌ民族文化財団副理事長)が
担当します。

ウポポイ
NATIONAL AINU MUSEUM and PARK
民族共生象徴空間

JR白老駅から徒歩約10分

ウポポイPRキャラクター
「トゥレッポん」

■本田優子(ほんだゆうこ):金沢市生まれ。札幌大学教授。北大卒業後11年間平取町二風谷に住み、アイヌ語講師を務める。
■村木美幸(むらきみゆき):白老町生まれ。アイヌ民族文化財団副理事長。先住民族アイヌの一員として文化継承活動に努める。
■山丸ケニ(やままるけに):白老町生まれ。アイヌ民族文化財団職員。ウポポイでアイヌ語体験プログラムを担当する。

イランカラプテ
「こんにちは」からはじめよう。